令和7年度　自己評価結果報告書

学校名	成田市立八生小学校

1　学校教育目標

やさしく　かしこく　すこやかに

2　本年度の重点化された具体的な目標

○やさしく（徳育）　　人を大切に思い、自ら気づき動ける
○かしこく（知育）　　伸び伸びと表現ができ、他者と学びを追求できる
○すこやかに（体育）　心身ともにいきいきと自律できる

3　自己評価結果

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策
教育課程 学習指導	学校は、わかりやすい授業の充実に努め、基礎・基本的な内容を確実に身に付けるよう取り組んでいる。	96%の保護者から、あてはまるとの支持を得た。 「先生や友だちの話をよく聞き、進んで学習に取り組んでいる」という児童は96%であった。	A	・基礎基本の徹底のために、漢字検定や算数検定を計画的に実施する。 ・司書教諭と連携して学校図書館の充実に努める。教育課程を改善し、日常的に読書ができるようにする。 ・外国人英語講師とのティームティーチングでは、連携を強化して授業の質を向上させ、英語の授業の時間を使っての国際交流活動の充実に努める。
	学校は、子供たちに豊かな心を育むために、読書活動の充実に努めている。	97%の保護者から、あてはまるとの支持を得た。 「朝の読書や本を借りて読むことに進んで取り組んでいる」という児童は86%であった。	A	
	学校は、外国語教育の充実や国際交流の促進に積極的に取り組んでいる。	90%の保護者から、あてはまるとの支持を得た。 「英語活動の時間は、楽しく学習に取り組んでいる」という児童は94%であった。	A	
	学校は、タブレットなどのICT機器の効果的な活用や情報モラル教育に取り組んでいる。	99%の保護者から、あてはまるとの支持を得た。「タブレットを活用することで学習への興味関心が高まったり、わかりやすくなった」という児童は93%であった。	A	
	学校は、健康・体力づくりの促進に積極的に取り組んでいる。	100%の保護者から、あてはまるとの支持を得た。 「体力をつける努力をしている」という児童は97%であった。	A	
	学校は、食育の推進と学校給食の充実に取り組んでいる。	100%の保護者から、あてはまるとの支持を得た。 「給食は、しっかりと食べようとしている」という児童は99%であった。	A	
	学校は、教育活動の中で、体験活動の促進に努め、めざす児童の育成に努めている。	99%の保護者から、あてはまるとの支持を得た。	A	
生徒指導	学校は、挨拶や返事ができ、他を思いやることのできる児童の育成に取り組んでいる。	93%の保護者から、あてはまるとの支持を得た。 「気持ちのよい挨拶や返事、丁寧な言葉遣いができている」という児童が93%であった。	A	・学校全体で教育相談の体制を向上させるために全職員が児童と関わるようにし、共通理解を図っていく。今年度から始めたタブレット端末を使った「心の健康観察」を継続して実施する。
	学校は、教育相談や生活指導の充実に努め、先生や友だちと安心して生活できるように取り組んでいる。	97%の保護者から、あてはまるとの支持を得た。 「すぐに先生や家族に相談している」という児童は80%であった。	B	
	学校は、教育活動の中で、子供たちに豊かな心や生命を大切にする心を育むために、道徳教育や人権教育の充実に努めている。	94%の保護者から、あてはまるとの支持を得た。 「いじめをなくそうと努力している」という児童は97%であった。	A	
特別支援教育	学校は、一人一人の子供を理解し、個に応じた指導や支援をしている。	97%の保護者から、あてはまるとの支持を得た。	A	・合理的配慮の申出に的確に対応する。 ・特別支援教育の研修に努め、職員の資質をさらに向上させる。
安全管理	学校は、災害や交通事故、不審者対応等、安全面の指導に積極的に取り組んでいる。	96%の保護者から、あてはまるとの支持を得た。 「交通ルールを守り、安全に登下校をしている」という児童は99%であった。	A	・保護者を含めた登校班会議を行い、登下校の安全を確保する。 ・児童の実態に応じた訓練を計画的に実施する。
保護者、地域住民との連携	学校は、地域に根ざした活動を通して、特色ある学校づくりに積極的に取り組んでいる。	97%の保護者から、あてはまるとの支持を得た。	A	・地域と連携した教育活動を各教科の学習と関連付けて取り組むことができるようにする。 ・「すぐーる」のタイムラインを活用して日常的に学校の様子を伝える取組を継続する。
	学校は、学校だよりや学年だより、ホームページや「すぐーる」等で積極的に教育活動の内容や子供たちの様子を伝えている。	100%の保護者から、あてはまるとの支持を得た。	A	
	本校職員は、子供たちの学習や生活について相談や連絡をしたとき、ていねいで、迅速な対応ができている。	99%の保護者から、あてはまるとの支持を得た。	A	

4　自己評価の結果の分析

○評価結果及びその分析・考察
　全ての項目において、9割を超える保護者から肯定的な評価があった。しかしながら「よくあてはまる」と「あてはまる」の割合について項目ごとに精査する必要があると考えている。
・「外国語教育の充実や国際交流の促進」については、保護者は「よくあてはまる」が73%「あてはまる」が17%で90%の保護者から支持を得た。「英語活動の時間は、楽しく学習に取り組んでいる」については、児童は「よくあてはまる」が67%「あてはまる」が27%で94%が肯定であった。
・「読書活動の充実」については、保護者は「よくあてはまる」が70%「あてはまる」が27%で97%の保護者から支持を得た。「読書に進んで取り組んでいる」については、児童は「よくあてはまる」が54%「あてはまる」が32%で86%が肯定であった。
・「教育相談や生徒指導の充実」については、保護者は「よくあてはまる」が76%「あてはまる」が21%で97%の保護者から支持を得た。「すぐに先生や家族に相談している」については、児童は「よくあてはまる」が46%「あてはまる」が34%で80%が肯定的であったが「ややあてはまらない」が14%「あてはまらない」が6%と20%の児童が否定的であった。教育相談については、一人一人の児童に応じることができるようさらに充実させる必要があると考える。
○自己評価を踏まえた改善の方策
　全ての項目において、保護者から高い肯定的な評価があったが、項目別に検討し、さらに改善できることを全職員で共通理解して実行していく。読書活動や教育相談の充実を進め、学校や地域の行事等を通して学校、家庭、地域が連携して児童が育つ環境づくりに努めていく。
　小規模校の特徴を生かし、児童が主体となる機会を多く設定し、全教職員が全校児童一人一人を理解して、組織で対応することを継続していく。